桜岡

学校だより　　２月号

桜ー第４７号
令和３年２月１日

桜岡小学校ホームページ
http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/schooi/es/sakuraoka

人とつながる　まちのよさに学ぶ

副校長　平島　幸江

２月に入りました。今年も校庭の花壇には、真っ白なスイセンの花が咲き始め春の訪れを予感させます。まだまだ寒さの厳しい毎日ですが、休み時間の校庭では元気に外遊びをする児童の歓声が響いています。そんな中、学校に一通の手紙が届きました。次のような内容でした。

> 御校の近隣に住む住民です。とても心あたたまることがあったのでペンを手にとり書いています。本日、いつものように帰宅路を歩いておりました。時折見かける３人組（1～3年生くらい）。その中の一人が乗物からこけてしまい泣いているところへ偶然通りかかりました。ケガをしているようだったので「大丈夫？」と声をかけると少し遠くにいた残りの２人が寄ってきて、その子を心配していました。膝をずりむいているようでしたが大きなケガではないようだったので、一安心。「おうちに帰って早く消毒したほうが良いよ」と言い残し、その場を離れ、自宅に向かって歩いていると、大きな声で「ありがとうございます」と。６回ぐらいだったでしょうか、振り返るたびにお辞儀をしていました。家での教育なのか学校での教育なのか、いずれにせよ、今もコロナ禍でギスギスした中であたたかい出来事でした。どうか３人をほめてあげてください。今後も自信をもってお礼が言えるように。そして学校中に広まりますように。地域、横浜、日本があたたかくなりますように。（一部中略してあります）

私は、この手紙を出勤した朝に読んだのですが、寒い朝でも心がホカホカと温かく元気になりました。思わず職員室にいた職員にも見せました。ある教員は目じりを下げて微笑みながら「へえ、この子誰でしょうね。いいお手紙ですね」と言いました。すぐにその日の朝会で、校長先生が児童に手紙を読んで聞かせてくださいました。読んでいる間、どの子もじっと聞き入っていて、校長先生が読み終わった後は、校庭になんともいえないしっとりとした良い余韻が残っていました。

言葉とは不思議なものです。優しい言葉を使うと優しい言葉が返ってくるのですから。このケガをした児童は、偶然出会った地域の方の優しい思いやりの言葉にふれて、心が動き、感動が大きな声となって表現されたのではないかと想像します。それで６回も連呼したのだと思います。思いやりのある地域に暮らしていることを感じ取り、安心感を抱いたことと思います。きっとこの出来事は、この児童たちの心の原風景となっていくのだろうなとも思いました。本当にこの方の心温まるご対応に、この場をお借りしまして心から感謝申し上げたいと思います。

先月中旬に、来年度実施する本校の１１０周年記念事業の第１回実行委員会を行いました。地域の代表の方や元PTA役員の方、現PTA役員の方と本校教職員の代表、約20名です。感染症対策を取りながらの図工室で、寒さや聞き取りにくさなどご不便をおかけするだろうと申し訳なく思っておりましたが、いざ話し合いが始まると、皆様それぞれアイデアやご意見を積極的にお話しくださり、充実した話し合いをすることができました。来年度の行事実施についてはまだ不確定なところも多いですが、今後は対策を取りながら、できる限り実行委員会や専門部会を定期的に実施し、令和３年10月30日（土）の創立記念式を中心とした、年間を通した記念事業に取り組んでいきたいと考えております。児童とともに桜岡のまちのよさに学び、このまちや学校で暮らしたあたたかな原風景を児童の心に残せるような、そんな記念事業にしていきたいと考えています。引き続き、ご理解ご協力の程宜しくお願いいたします。